

サケ



生態

- 年齢・成長：2歳で約50cm、4～6歳で最大80cmに成長します。
- 成熟・産卵：2～6歳で成熟します（主群は4歳）。9月～12月にかけて沿岸に来遊し、生まれた河川に遡上して産卵します。
- 分布・移動：主に茨城県以北の太平洋側、石川県以北の日本海側に分布します。稚魚は3～5月に河川から海へ降海し、その後、北太平洋海域（オホーツク海、ベーリング海、アラスカ湾）まで索餌回遊します。成熟すると日本沿岸まで来遊します。
- 食性：幼魚期は主に動物プランクトン、成魚はオキアミ、小魚、イカ類などを摂食します。

漁獲の動向

平成13～22年までの海面でのサケ漁獲量は400～800トン、金額は82～206百万円で推移していました。平成23年以降、震災による操業自粛、国による出荷制限で水揚げはありませんでした。平成26年から試験操業が開始し、平成30年までの漁獲量は5～19トンで推移してきましたが、令和元年以降、サケの回帰数は、極端に減少し、令和4年の海面での漁獲量は僅か52kgでした。本県のサケはほぼ100%が人工ふ化放流によるものなので、漁獲量の増減は稚魚放流数に大きく左右されます。震災前の平成22年までは4～6千万尾の稚魚放流を行っていましたが、震災により、一部の河川で稚魚放流が中断した影響で平成23年以降の放流数は1百万～1千3百万尾まで減少しています。震災前の回帰率（海面と河川の漁獲尾数を4年前の稚魚放流数で除した値）は0.7～1.2%となっていたましたが令和元年から急激に低下し、令和4年の回帰率は、僅か0.016%でした。

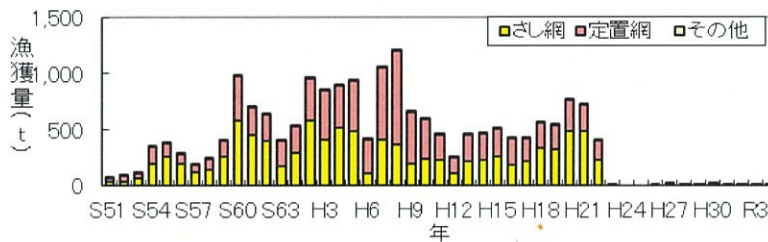


図1 サケの漁業種類別漁獲量の推移

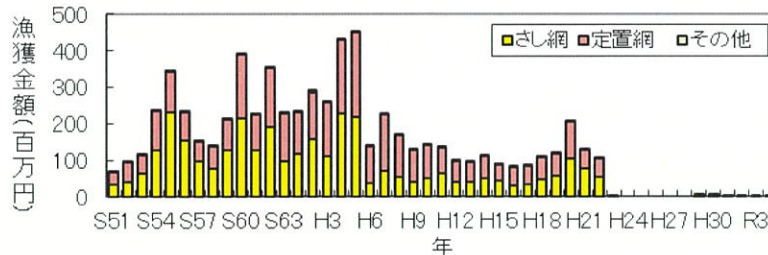


図2 サケの漁業種類別漁獲金額の推移※

※H25～28は相対取引のため、データなし

資源の状態

○本州太平洋では、令和元年～4年の回帰率は、極端に低下しました。

資源の水準：低位
資源の動向：減少

現在実施されている管理策

産卵親魚保護のため、福島県漁業調整規則により、河口前面海域での漁獲が制限（時期、場所）されています。

考えられる管理策と期待される効果

稚魚放流により人工的に造成している資源であることから、放流数の確保はもとより、回帰率向上の取り組みが必要です。